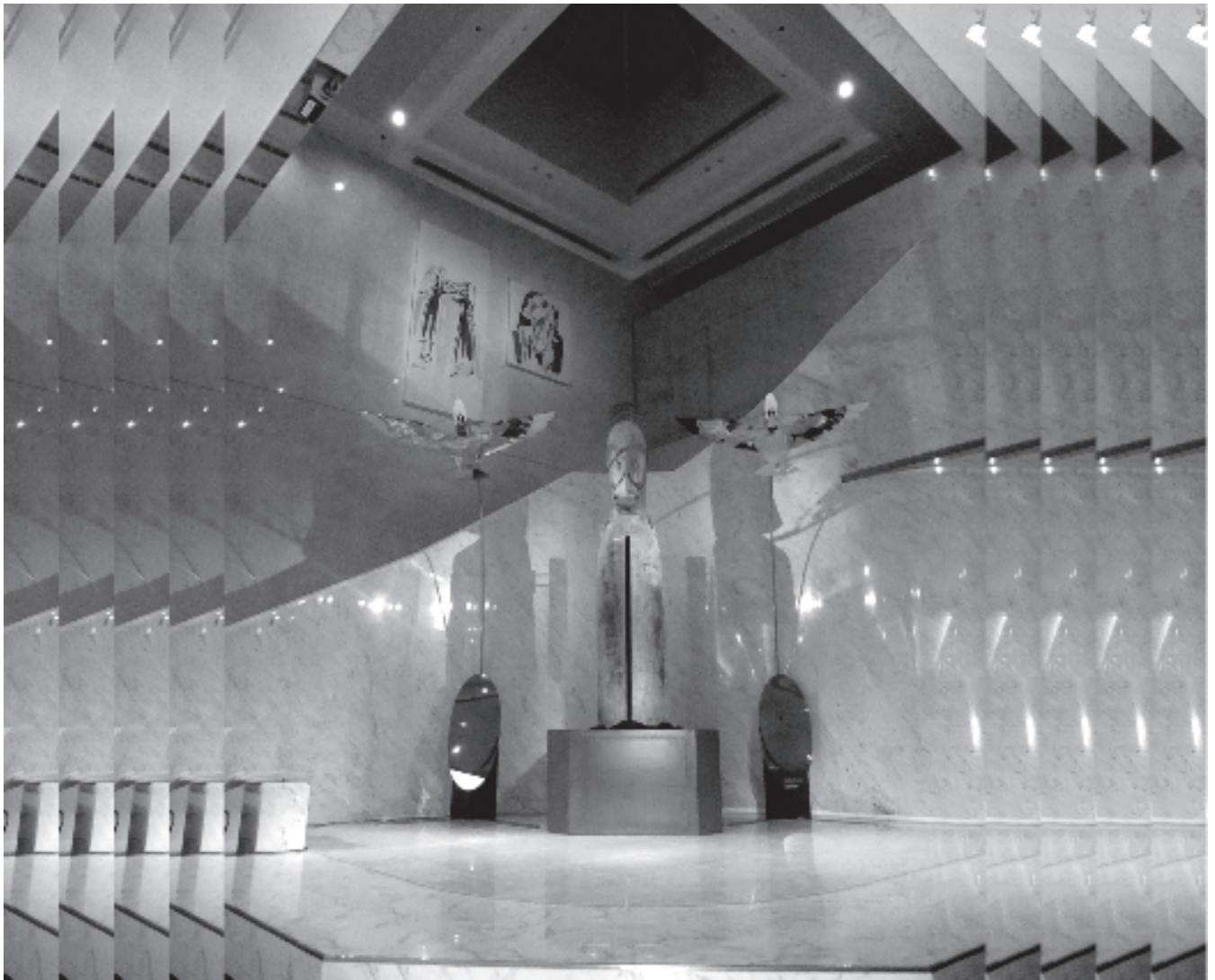




楽器博物館「天空ホール」誕生！！

～鳥が天に舞う理想の音空間へ～



楽器博物館地下展示室のステージが「天空ホール」として生まれ変わりました。今までにもミニコンサートやイヴングサロン、レクチャーコンサートで使われていたこのステージは、大理石の白い床にヴァヌアツ共和国の大きなスリットドラムが立ち、天井も高くてなかなか雰囲気の良い空間です。しかし天井が高いために音が上に逃げてしまい、客席に響きにくいのが難点でした。これを解決するには反響版の設置が必要ですが、反響版を天井から吊り下げるとは莫大な工費がかかるため困難。あれこれと知恵をしばり、据え置き型になりました。

当初は円盤型などを考えていましたがデザイナーと検討するうちに翼を広げた鳥のイメージに。

スリットドラムがニューギニア地域のものなので、この地域に多数生息し、精霊や神として人々から大切にされているサギのデザインとなりました。

素材は鏡面仕上げのステンレス。素朴な丸太のスリットドラムと近代的なステンレスの鳥の組み合わせが、予想以上にマッチして素敵な空間が誕生。まずは2羽の鳥ですが今後増やしてゆき、吹き抜けの天井にも将来は小型のサギが舞う予定。肝心の響きはというと、たった2羽の鳥が加わっただけでも効果抜群で大成功。天に舞う鳥のように音が天に舞う空間なので、名づけて楽器博物館天空ホール。さらにステージ床面も広がって演奏しやすくなりました。今後は様々なコンサートで活躍の予定。どうぞご期待ください。

楽器博物館開館 15 周年

館長に聞く歩みとこれから その1

日本初の公立楽器博物館として開館した浜松市楽器博物館は、この4月8日で開館満15年を迎えました。今年には15周年の記念の年。



例年にも増して数々の活動が予定されています。所蔵資料数3200点、展示楽器数1200点、展示のほかにレクチャーコンサートや講座、CD講座、CDの制作など、その活動は今や世界第一級となった浜松市楽器博物館の歩みとこれからのについて、館長の嶋和彦氏にインタビューしました。

—まず15周年を迎えてひとこと。

毎年毎年どんな活動をしようか、価値ある活動にするにはどうすればよいかを考えながら過ぎてきましたけど、振り返ってみれば、あつという間の15年だったなあという気がします。とにかく日本で初めての公立の、一般市民が誰でもいつでも見学利用できる博物館ですから、展示から始まって活動のすべてが試行錯誤の連続でした。でも15年間で行ってきたことが、今では大きな財産となって、博物館の価値を高めていると思います。

—世界には楽器博物館がたくさんありますけれど、浜松の楽器博物館の特徴は何でしょうか。

世界で最も古い楽器博物館はベルギーの首都ブリュッセルにある国立のブリュッセル楽器博物館です。1872年の創立です。収蔵点数8000点を有するすばらしい博物館です。他にはドイツのベルリンの国立楽器博物館、パリの国立音楽博物館の楽器展示など、ヨーロッパにはすばらしい楽器博物館がたくさんあります。アメリカではメトロポリタン美術館の楽器部門が有名です。これらの欧米の博物館の特徴は、ヨーロッパの楽器は言うに及ばず、アフリカなど他地域の楽器も数多く持っていることなのですが、実は根底には、ヨーロッパの楽器が世界で一番優れているという考えが流れています。

ヨーロッパの楽器がすばらしいものであることは間違いありませんが、ではアジアやアフリカなど、地球上の他の地域の楽器がヨーロッパの楽器よりも劣っているかということ、それはもう明白、劣ってはいませんよね。日本の琴、尺八、三味線、インドネシアのガムラン、アフリカの太鼓が劣っているとは決して言えません。つまり、日本酒とウイスキーのどちらが優れているか、という問いがナンセンスであるのと同じように、どの地域の楽器が優れているかという問いもナンセンスなのです。何千個も部品でできているピアノもたった一本の竹でできた竹笛も、製作に必要なコストは違うでしょうが、楽器としての価値は同じです。

というわけで、浜松の楽器博物館は、「世界の楽器を同じ目線で平等に扱って展示紹介している」のです。当たり前のように、実はこれは世界初のことで、世界に誇るべきコンセプトなのです。浜松はヨーロッパの楽器を偏重することはしない。かといって逆に自国である日本の楽器をいたずらに自慢することもしないのです。それぞれがすばらしい文化であるという立場をとっています。



この4月にアメリカのアリゾナ州フェニックスに世界で一番新しい私立の楽器博物館が誕生しました。そのコンセプトも「楽器は文化である」というもので、世界の楽器と音楽を平等に、対等に扱っています。昨年館長さんが浜松に来られてお話しましたが、浜松の楽器博物館のコンセプトに驚いておられました。「先を越された」と。

—なるほど、世界に誇れるコンセプトをもった楽器博物館なのですね。では次回から活動についてお話していただこうと思います。



アフリカ、アメリカ、オセアニア、ヨーロッパの楽器がずらりと並ぶ地下展示室

さまざまなテーマで楽器の世界を探求

カミーユ・プレイエルに捧げられたプレリュード 名器プレイエルで聴く“24の前奏曲”



日時：平成22年1月17日(日)14:00～16:00
(レクチャー：1月16日(土)14:00～16:00)
会場：アクトシティ音楽工房ホール
出演：河合優子 入場者：232人

ショパン生誕200年を記念したこのコンサートでは、ショパン演奏の世界的スペシャリストである河合優子さんをお招きしました。使用した楽器は

当館所蔵の、1830年にパリのプレイエル社で作られたフォルテピアノです。コンサートは、「24の前奏曲」全曲のプログラムでした。ショパンが活躍していた時代の楽器で、ショパンの名手がショパンを弾くという、ショパンが現世に蘇ったような素晴らしい演奏会となりました。

コンサートの前日には、河合さんがショパンの自筆譜をスクリーンに映して、それに解説を加えながら実演していくレクチャーがあり、ショパンの楽譜を書く癖や修正痕を一つ一つ検証していきました。ショパンの書いたとおりに現代のピアノで弾くと響きすぎて音が濁ってしまう箇所があるが、当時のピアノで弾くとすっきりした響きが得られる、ということを実際のピアノと弾き比べながら解説すると、会場からは感嘆の声が漏れました。

長唄三味線～粋を極めた江戸の音～

日本の伝統楽器、長唄三味線のレクチャーコンサートを行いました。出演は「伝の会」のお二人。歌舞伎の「勸進帳」や「娘道成寺」などの三味線音楽や効果音の実演の合間に、太棹や細棹など三味線の種類、構造や素材の解説などを軽妙なトークで会場を笑いの渦に巻き込みながら演奏会は進んでいきます。下座音楽の「雁と燕」の演奏では、当館の鳴館長が有名な白波五人男・日本駄右衛門の口上「問われて語るもおこがましいが、生まれは遠州浜松在……」を語り、それに合わせて三味

線が演奏され、拍手喝采でした。様々な三味線文化が紹介された盛りだくさんの内容の演奏会となりました。



日時：平成22年2月6日(土)14:00～16:00
会場：アクトシティ音楽工房ホール
出演：伝の会(杵屋邦寿 松永鉄九郎) 入場者：194人

モンゴルの風にのせて

モンゴル国立文化芸術大学出身の精鋭で編成された民族楽器アンサンブル「モンゴル・アヤルグー」の皆さんをお招きして、様々な楽器を使ったモンゴル民族音楽のコンサートを行いました。よく知られている馬頭琴の他、2つのバチで弦を叩くヨーチン、仏教で使われる管楽器のビシュグール、それに横笛のリンベが登場し、多くの楽器と、「オルティン・ドー」や「ボギン・ドー」、「ホーミー」といった独特の唱法の歌が響く華やかな演奏会となりました。



日時：平成22年3月21日(日)18:30～20:30
会場：楽器博物館展示室 入場者：86人
出演：モンゴル民族アンサンブル「モンゴル・アヤルグー」

ヴィオラ・ダ・ガンバの魅力

～イギリスのコンサート音楽～

古楽器ヴィオラ・ダ・ガンバによるコンサート音楽の演奏会を行いました。出演は、ザ・ロイヤル・コンサートのお二人。「コンサート」はイギリスで流行した音楽の形式で、同種の楽器を組み合わせ合わせたアンサンブルを指します。3年前にも演奏していただきましたが、今回は出演者の楽器に加え、楽器博物館所蔵の歴史的なヴィオラ・ダ・ガンバ4台を使用しました。様々な楽器が入り交じるオーケストラとは異なり、同質の響きを持つ楽器での合奏は、いかにもヨーロッパの貴族たちに愛されていたことを感じさせる美しさで、雅びな響きがホールに満ちました。



日時：平成22年4月10日(土)14:00～15:30
会場：アクトシティ音楽工房ホール
出演：ザ・ロイヤル・コンサート 入場者：86人

CD「バロック・オーボエ」「クラヴィコード」新発売!

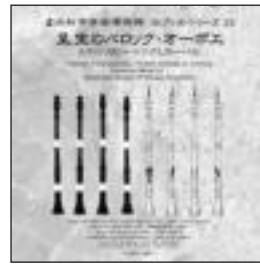
当館所蔵の楽器を現代の第一人者が演奏したコレクションCDシリーズに「バロック・オーボエ」と「クラヴィコード」の2枚が加わりました。

「至宝のバロック・オーボエ」は、イギリスの名工トマス・スティンズビー・シニアが1700年頃に製作し「オーボエのストラディヴァリウス」といわれる楽器と、ドイツのクレーニヒが製作した総象牙の贅を尽くした楽器の2本を、本間正史さんが演奏したものです。オトテール・ル・ロマンの組曲他を収録しています。「クラヴィコードの世界」は本邦初のクラヴィコード・アルバム。1788年にスウェーデンのリンドホルムが製作したクラヴィコードを名手宮本とも子さんが演奏しています。ハイドンやC.P.E.バッハのソナタ他を収録。チェンバロ以上に繊細な楽器クラヴィコードでしか味わえない、奏者の指先の微妙なタッチの変化が見事に録音されています。

両CDともに新聞とレコード芸術誌で絶賛され、CD販売店でも良く売れているそうです。他のシリーズと同様、当館ショップや一般CD販売店、アマゾンなどで購入していただけます。

コレクションシリーズ22 「至宝のバロック・オーボエ」

演奏：本間正史(オーボエ)、中野哲也(ヴィオラ・ダ・ガンバ)、梅津樹子(チェンバロ) 2,200円



レコード芸術準特選
読売新聞推薦

オーボエ愛好家、演奏家なら誰もが憧れるスティンズビー・シニアの楽器そのものが使われている。(中略) バロック・オーボエの奥深さや魅力を体験できる録音である。
(那須田務・レコード芸術)

コレクションシリーズ23 「クラヴィコードの世界」

演奏：宮本とも子(クラヴィコード) 2,200円



レコード芸術特選
朝日新聞推薦

クラヴィコードから美しく、しかも無限の表情変化を秘めた音色を引き出し、聴く者を魅了してしまう。(中略) 疑いなく「一級品」である古楽の名盤。
(濱田滋郎・レコード芸術)

◆これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります。
- 展示品の演奏デモンストレーション 毎日1時間毎
チェンバロや19世紀のピアノなどのデモ演奏
- 特別展
「バンジョー大博覧会～誰からも愛された楽器の物語～」
7/31(土)～8/31(火)
- 開館15周年記念企画
「親指ピアノフェスティバル～みえてくるアフリカ～」
コンサート&講演会 7/3(土)15:00 音楽工房ホール
ワークショップ 7/3(土)12:30 研修交流センター
- レクチャーコンサート
「快音快感・カリブのスティールパン」
5/2(日)14:00 音楽工房ホール
「須磨琴～遙かなる平安の雅～」
6/26(土)14:00 音楽工房ホール
- イブニングサロン
「二人八弦十色～ライヴァル二人の競演～」
5/8(土)18:30 展示室
「ワルツに恋して」
6/2(水)19:00 展示室
- 講座 シルクロード民族音楽紀行(全8回)
第1回「モンゴル」4/24(土)
第2回「ウイグル、キルギス、チベット」5/8(土)
第3回「ウズベキスタン、カザフスタン、トルクメニスタン」5/23(日)
第4回「アフガニスタン」6/5(土)
第5回「イラン」6/27(日)
第6回「イラク」7/10(土)
第7回「レバノン、シリア、ヨルダン」9/25(土)
第8回「トルコ」10/9(土) いずれも13:30 研修交流センター

◆博物館日誌

- 1/16(土) ショパン生誕200年記念
講座「自筆譜から見るショパンの思考～カミーユ・プレイエルに捧げられたプレリュード～」
14:00 音楽工房ホール 出演：河合優子
参加者71人
- 1/17(日) ショパン生誕200年記念
レクチャーコンサート「名器プレイエルで聴く
“24の前奏曲”」14:00 音楽工房ホール
出演：河合優子 入場者161人
- 1/23(土) 講座「楽器の中の聖と俗」
第47回「壬生(みぶ)の花田植」14:00
研修交流センター 出演：西岡信雄 参加者14人
- 2/6(土) レクチャーコンサート
「長唄三味線～粋を極めた江戸の音～」14:00
音楽工房ホール 出演：伝の会 入場者194人
- 2/21(日)、2/28(日) ミュージアムサロン
「浜松江之島高校生によるミニコンサート」14:00
展示室 出演：浜松江之島高校芸術科生
参加者71人
- 3/7(土) ワークショップ
「馬頭琴とモンゴルの暮らし」10:00、13:00、15:00
研修交流センター 参加者18人
出演：馬頭琴レクチャーグループ・サランモル
- 3/21(日) レクチャーコンサート「モンゴルの風にのせて」
14:00 音楽工房ホール 出演：モンゴル民族アン
サンブル“モンゴル・アヤルグー” 入場者86人
- 4/10(土) レクチャーコンサート
「ヴィオラ・ダ・ガンバの魅力～イギリスのコンソ
ート音楽～」14:00 音楽工房ホール
出演：ザ・ロイヤル・コンソート 入場者94人

利 用 案 内

常設展観覧料：大人400円 高校生200円
中学生以下・障害者・高齢者(70歳以上)は無料
開館時間：9:30～17:00
休館日：毎月第2・4水曜日(祝日の時は翌日)、年末年始、
その他施設点検等のための臨時休館日

浜松市楽器博物館だより

平成22年4月20日発行 No.59
編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp
URL <http://www.gakkihaku.jp/>

お知らせ：「浜松市楽器博物館だより」は、ホームページからも見るすることができます。また、ホームページでは最新のイベント情報も紹介しています。ぜひご覧ください。